

れんぎ
認定特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階

Tel: 03-5206-5260 Fax: 03-5206-5261

Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室

Tel: +86-871-63311468 Fax: +86-871-63320658

f http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa

ブログ 雲南の郵便屋さん

検索

編集・発行人 初鹿野 恵蘭

印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社 / デザイン Hope Company



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第53号

会
報

発行日 2015年(平成27年)5月15日



④ 普小剛くん(ミャオ族、6歳、就学前クラス在籍)

中国は経済成長に伴って大きく変容し、本当に支援が必要なのか疑問に思うことがあります。支援の必要性をあらためて強く感じる出来事がありました。

今年3月、私は「第2回日本雲南大学生交流スタディツアー」の大学生諸君を引率して、2009年に協会の支援で開校した「老木壩小学校」を訪れました。近年、地元政府の尽力で給食室が整えられ、確かに開校当時よりも小学校の生活環境は良くなっていました。しかし、村を4年ぶりに訪問してみて、以前と変わらぬ貧しい家庭があることを知りました。

小学校に到着後すぐに私たちは村を訪問しました。すると、「おう、久しぶりだね!」と1人の男の子が人懐っこそうに近寄ってきました。前回村を訪問した大学生を覚えていたのです。男の子は普小剛くん(6歳)といいます。私はその泥だらけの服に驚きましたが、貧しいながらも笑顔の絶えない活発な男の子という印象を抱きました。彼を覚えていた大学生によると、彼は前回のスタディツアーで村を訪問した今年の9月も同じ泥だらけの服装で、元気よく無邪気

「50の小学校」プロジェクト 19校目 老木壩小学校 初鹿野理事長 再び訪問 老木壩小学校で出会った少年

に走り回っていたそうです。

翌日、学校に子どもたちが登校してくると彼はよりいっそう目立ちました。他の子どもたちと比べ服装も教科書もボロボロで、彼の家庭の貧しさが際立っていました。学校の先生に話を聞くと、彼の家庭環境が複雑なことがわかりました。両親は少数民族のイ族とミャオ族でどちらも再婚同士だそうで、言語が異なるために家族の間の意思疎通すら難しい時があるそうです。また、両親ともに学校へ行けなかったために、彼も標準語を十分に話すことができず、厳しい経済状況から1年中同じ服を着て暑い夏も寒い冬も過ごさざるをえないのだそうです。寄宿舎に入のお金もないので、雨の日も風の日も毎朝6時に家を出て暗闇の中を歩いて通学しているとのことでした。その夜の8時頃、私は普小剛くんの家を訪ねました。両親はまだ農作業から帰っておらず、彼は泥だらけのまま食事口にしていませんでした。後日、老木壩小学校へ行った大学生から聞いたところ、彼のように替えの洋服を持たない子どもや電気のない家庭も多かったということで、他の村でも彼のような子が多くいることが窺えました。

普小剛くんは他の子どもから馬鹿にされたりすることもあります。でも、いつも活発で笑顔が絶えることはありません。彼は、学校へ来ることや勉強すること、ほかの子



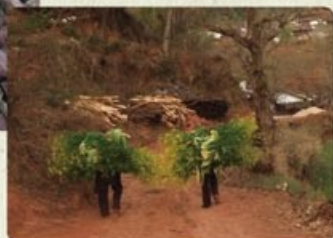
⑤ ボロボロになってもまだ使っている教科書



⑥ 普小剛くんの家族と初鹿野恵蘭理事長



⑦ ガタガタの坂道の先に小剛くんの家があります



⑧ 小剛くんの家の台所

⑨ 買ってあげた2足の靴を持ってとても嬉しそうです



どもたちと遊ぶことが大好きだ、と拙いながらも誠意のこもった標準語で私に話してくれました。私は「何とかこの子の力になりたい」と強く感じ、個人的に学費・生活費の支援を決意しました。急速、町へ行き、彼のために清潔な洋服を買って帰り、スタディツアーの大学生といっしょになって、彼を人生初めてのお風呂に入れ、きれいな服に着替えさせ、歯ブラシで歯磨きすることを教え、清潔であることの気持ちよさを体感してもらいました。すると、それまでどこにでも寝そべっていた彼が自分できれいにするようになり、物を大切にするようになりました。寄宿舎に入れることになったことも「とっても嬉しい!おばさんありがとう!」と満面の笑みを浮かべて喜んでいました。

いまだに貧しい村の状況に衝撃を受けましたが、一方で協会の活動が花開き始めていることを感じる出来事もありました。「50の小学校」プロジェクトの小学校を卒業し、「25の小さな夢基金」で支援を受けて高校を卒業して、スタディツアーに参加してくれた雲南の学生が、卒業後の夢を聞かせて

初鹿野恵蘭理事長にお礼のキス



⑩ 人生初のお風呂



くれたのです。大学を卒業した学生の中には教師になり、村へ帰った子もいます。支援してきた子どもたちが厳しい村の状況を変えようと努力している姿に私は感動し、これからも地道に支援の活動を続けなければいけないと思いました。

厳しい村の状況を変えるにはまだまだ時間がかかります。これまでご支援頂いた皆様にもどうか今後も、このような子どもたちへ協会と共に支援していただきますよう、お願い申し上げます。

(日本雲南聯誼協会理事長 初鹿野恵蘭)



「50の小学校」プロジェクト 25校目「蘇典郷勐撒小学校」寄宿舎再建進捗報告

協会は設立以来、皆さんからのご支援で雲南省の25の少数民族に2校ずつ小学校を建設する「50の小学校プロジェクト」に取り組んできました。昨年までに24校を建設し、プロジェクトの折り返し地点となる25校目はタイ族チンポー族自治州盈江県にある「蘇典郷勐撒小学校」に決まりました。現在、この小学校には1、3、5年生79名が在籍し、そのうち68名が寄宿生です。昨年5月の2度にわたる大地震で校舎、食堂、寄宿舎が甚大な被害を受けました。生徒たちはプレハブの建物での勉強、生活を余儀なくされています。協会は皆さんの支援金を寄宿舎建築費用に充て、子どもた



⑪ プレハブの校舎での授業

ちができるだけ早く安心な生活を取り戻せるよう、現地と連絡を取りながらプロジェクトを進めています。寄宿舎の設計図はすでに完成し、年内の竣工を目指しています。次号以降も「蘇典郷勐撒小学校」寄宿舎再建の進捗状況をご報告します。

「25の小さな夢基金」創立9周年記念誌出版決定!

本年8月の出版に向けて「25の小さな夢基金」創立9周年記念誌の編集プロジェクトが本格的に動き出しました。

この記念誌出版の目的は、単に夢基金9年の活動を記録に残すだけでなく、卒業生を含めた全支援生徒の現状と支援者の方々、支援者と春蕾生との交流を陰で支えていただいた翻訳ボランティアの方々などの存在を後世に留め、「25の小さな夢基金」が果たした意義を広く伝えることにあります。

夢基金支援者の皆さまはそれぞれの支援生徒との手紙のやり取りを通して、春蕾生徒についてある程度の知識を得られている

ことと思いますが、まだまだご存じでないことがたくさんあると思います。この記念誌では、今まで皆さんが知ることのなかった「春蕾制度」の成り立ちや昆明女子中学校の歴史、春蕾生徒の寄宿生活の様子や夏休みや冬休み中の実家での生活の様子、高校卒業後の姿などなど、春蕾生徒にまつわる「知られざる姿」もご紹介します。

気が付けば9年。これまでの9年間に協会を通して支援した生徒は在校生も含め472名に達し、サポーター数も231名になりました。「25の小さな夢基金」の支援を受けて昆明女子中学校を卒業した生徒は、現役の春蕾生徒の数を超えつつあり、大学生

となった春蕾生が協会の活動を応援してくれるまでになりました。この記念誌が、春蕾生にとっては青春の証しとなり、より多くの人々に「25の小さな夢基金」に対する理解を深める契機となることを願っています。

(プロジェクトリーダー
平田栄一)

編集会議中
平田栄一編集長(右から2番目)



みなさんの温かい「支援の輪」が広がっています

協会は毎年、大勢の方からご寄付をいただきます。募金方法は、イベント会場に募金箱を置いたり、団体で募金を呼びかけたりとさまざまです。雲南省の最高峰・梅里雪山を中心とする雲南・チベット地域に関心を持つ人々が集う「雲南懇話会」と、東京西荻窪で音楽制作や音楽スクールなどを手がける「ビッグメイドミュージック」は独自の募金活動を続け、毎年数回、協会に寄付金を届けてくださっています。この両団体から募金活動についてご紹介いただきます。

●雲南懇話会

雲南懇話会は2014年12月に満10周年を迎えました。この間、「地域研究」に関する講演を148件、雲南・崑崙およびネパールでのフィールドワークを10回、タイ文化圏でスタディーツアーを3回行いました。こうした活動は雲南懇話会のホームページで公開しています。2014年11月にはJICA(国際協力機構)が運営する国際協力キャリア総合情報サイト「PARTNER」に国際協力団体として登録されました。

貴協会の地域に密着した諸活動、辺境の地に生を受けた子ども達を継続して支援する地道な活動に対しては、その志の高さに感服すると同時に深甚なる敬意を表する次第です。

2014年8月3日に昭通市魯甸県で発生し

た地震災害に際しては、初鹿野恵蘭理事長の雲南懇話会会場での支援要請を受け、当懇話会として初めて募金活動を行いました。2015年1月、甚だ些少ではありますが、初鹿野理事長に直接負託したところ。被災した山地の子供たちへの支援に役立ていただければ幸いです。

貴協会の今後益々のご発展をお祈りすると共に、変わらぬご交誼を賜りますようお願い申し上げます。

(雲南懇話会代表幹事 前田栄三)

●ビッグメイドミュージック

弊社は都内で音楽制作を行っており、その理念の1つは、音楽を通じて人の心と心の繋がり、人間の持つ可能性を訴えていきたいということです。

弊社代表の作曲家・江藤雅樹は10代の頃に地元の神戸で阪神淡路大震災に遭遇しました。その被災経験から、人の苦しみや悩みを共有し、何か人のお役に立ちたいとの思いでスタッフ一同取り組んでおります。

2008年5月の四川大地震の際、弊社が初めて復興支援活動として募金や売上からの寄付を行おうとした際に協会とのご縁が生まれました。以降は東日本大震災、昨年の雲南・昭通の地震でも、微力ながら協会を通じて送金させていただきました。

昨今、自然災害のみならず、不安渦巻く世界情勢の中、安心して暮らすことが難しくなっています。「聯誼」という意味を調べたところ、「聯」は「つらなる」、「誼」は「親しい関係」。協会とのご縁を含め、隣国との結びつき、まさに「民間外交」こそ世界を草の根で繋げていく大きな力だと思

います。

弊社は今年、新たな制作ブランドを立ち上げ、映像音楽を中心に、日本からアジア、世界へと活動を広げていこうと取り組んでいます。1人の力は小さいながらも、仕事を通じてその1人の変革から連帯の輪が生まれ、やがては世界が変わることへのお役に立てるようお願いしつつ、今後とも頑張らせて参ります。

最後に、協会設立15周年となる本年、協会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

(株式会社ビッグメイドミュージック
取締役副社長 佐藤真治)



雲南懇話会の安仁屋武代表(中)と前田栄三監事(右)



2014年12月20日開催の
第31回雲南懇話会の会場風景
長岡正利氏撮影



今年の3月31日に佐藤真治取締役副社長自ら
事務所に東日本大震災復興支援金を
持ってきてくれました

2月12日 2014年度 第4回理事会及び役員・顧問会 開催

2014年度 第4回理事会及び役員・顧問会が下記の通り行われました。

日時：2月12日(木)
理事会 16:00～17:00
役員・顧問会 17:00～18:00
場所：(株)技術評論社内1階 101会議室
司会進行：中村有里子理事
参加人数 14名(事務局含む)



2月12日の理事会及び役員・顧問会の様子

議案

認定申請手続き、2012年度(平成24年度)及び2013年度(平成25年度)の「正味財産増減計算書」の一部修正承認、「日本雲南大学生交流スタディーツアー」実施、15周年記念式典実施、「ふれあいの旅」実施、2015年度理事会及び役員・顧問会実施日程決定

2月25日 臨時総会 開催

2月12日に行われた理事会及び役員・顧問会で承認された第2号議案について会員(正会員及び法人会員)の承認を得るため下記の通り臨時総会が行われ、議案について審議が十分に尽くされ、満場異議無く可決承認されましたのでご報告いたします。

日時：2月25日(水) 10:00～12:00
場所：(株)技術評論社内5階 501会議室
司会進行：滝澤崇顧問
議長：遠藤功理事

議事録署名者：佃純誠監事、村松健児監事

議決権を有する会員数 337名 出席会員数 188名(うち委任状出席 174名)

議案

2012年度(平成24年度)及び2013年度(平成25年度)の「正味財産増減計算書」の一部修正承認の件



2月25日の臨時総会の様子

協会顧問・樋口先生の老村小学校 訪問記

2014年11月20日、昆明事務所スタッフの林娜さんと一緒に老村小学校を訪問しました。同校には2009年4月に「50の小学校」プロジェクトの下調べに行ったきりで、2010年5月の開校式には出席できなかったもので、完成後の校舎を見るのは初めてでした。生徒が喜びそうな紙飛行機を折り紙で作るために日本から折り紙を持参して、先生に折り方を説明しました。また手洗いの役に立つように新しいタオルも40枚持参して張有文校長の奥様に渡しておきました。

今回の訪問時には新しい校舎のほかに新しく食堂などの建物が増設されていました。おそらくこの小学校がこの地域の中心として完全小学となっているためでしょう。こうした教育支援が子供たちの将来だけでなく地域の発展に役立つことを期待しています。

(日本雲南聯誼協会顧問 樋口忠治)



樋口忠治顧問と子どもたち



老村小学校の子どもたち

「小さなカメラマン」プロジェクト 第2回 日本雲南大学生交流スタディツアー デジタルカメラ・体脂肪計・本 皆さまからの寄贈に感謝



老村僑心小学校に皆さんからの絵本が届けられました

今年1月30日と2月20日のメール通信でデジタルカメラ、体脂肪計、本の寄贈を呼びかけたところ、デジタルカメラ4台と体脂肪計1台、100冊以上の本が集まりました。

デジタルカメラは、3月の「第2回日本雲南大学生交流スタディツアー」で訪れた「50の小学校」プロジェクトの老木壩小学校、老村僑心小学校の子どもたちに直接手渡し、「小さなカメラマン」プロジェクトで使う写真

を撮ってもらっています。

体脂肪計は、スタディツアーの「栄養改善」チームが老村僑心小学校で身体測定に使い、本のうち児童書は老木壩小学校の図書室に、一般書は雲南師範大学の図書館にそれぞれ届けました。

寄贈いただいた皆さまには、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました！

ご寄贈していただいた皆さま (五十音順、敬称略)

- 近藤 一 (日本雲南聯誼協会名古屋支部支部長) — デジタルカメラ2台と本16冊
- 新田 真弓 (日本雲南聯誼協会会員) — 体脂肪計1台と本8冊
- 木村 隆男 — 本45冊
- 清水 雄輔 (日本雲南聯誼協会顧問) — 本37冊
- 中村 有里子 (日本雲南聯誼協会理事) — 本23冊
- 荒川 一郎 (日本雲南聯誼協会会員) — デジタルカメラ2台
- 上原 正夫 (日本雲南聯誼協会会員・常勤ボランティア) — デジタルカメラ1台
- 陸 欣妍 (日本雲南聯誼協会雲南支部ボランティア) — デジタルカメラ1台

●「小さなカメラマン」プロジェクト

雲南省少数民族の子どもたちの目に映る「本当の雲南」を日本の皆さんに見てもらおうという狙いで始めました。協会がこれまでに支援した小学校の子どもたちにカメラを渡し、自由に写真を撮ってもらい、写真展や壁新聞などで発表しています。当初は使い捨てカメラを使っていたが、現在はデジタルカメラで撮ってもらっています。

九州大学名誉教授 國武豊喜先生 文化勲章受章 おめでとうございます！

協会の長年の会員であり、「50の小学校プロジェクト」19校目・老村小学校の建設資金200万円を個人として寄付された國武豊喜九州大学名誉教授が、昨年(2014年)秋に文化勲章を受章されました。國武豊喜先生は高分子化学の分野で世界的に有名な研究者です。

國武豊喜先生は老村小学校の開校式に際しては、ちょうどフランスからの帰国途中でしたが雲南に立ち寄って式典に出席していただきました。日本雲南聯誼協会としては、このような世界的に有名な科学者である國武先生にご協力いただいたことに心から感謝したいと思います。

(日本雲南聯誼協会顧問 樋口忠治)



老村小学校の子どもたちと國武豊喜先生、初鹿野恵蘭理事長

让我们一起学习中文吧！ 待望の中国語講座 開講

協会では「第2回日本雲南大学生交流スタディツアー」参加学生に向けて中国語講座(1/8~2/26全8回)を開催しました。このほかにも多数の方から中国語講座を受けたいという声があり、協会初となる初心者対象の中国語講座を開講することになりました。講師は北京に語学留学し、中国での駐在経験もある本会報誌「彩雲の南」の木本編集長です。詳しくは協会ホームページ、Facebookをご覧ください。



1月から行われた中国講座
簡単な自己紹介まで
できるようになりました

日時： 5月14日から10月1日の毎週木曜日 ※8月20日を除く。
19:00~20:00 全20回

場所： 日本雲南聯誼協会会議室

参加費： 1,500円/回 ※教材費込み。参加費は講座運営費に充てます。

定員： 10名

問合せ： 日本雲南聯誼協会東京本部事務局

担当： 渡部 優美 (わたべ ゆみ)

☎03-5206-5260 ✉yunnan@jyfa.org

協会ホームページ：http://www.jyfa.org/



雲南省より視察団来日 ～日本の都市計画を視察

雲南省昆明市都市交通研究所の一行7名が2月4日から11日まで日本を訪れ、雲南省の交通政策の参考にするため、協会の案内で東京都内を視察しました。

一行は東京都整備局を訪問したほか、東京駅や虎ノ門地区、新宿地区などを精力的に視察し、東京駅の視察では全日本鉄道労働組合総連合会(JR総連)の萩原光廣副委員長にご尽力いただきました。視察団の葉暁雷団長からは「雲南とは異なる都市整備や交通網を見ることができ、今後の都市計画に非常に参考になった」との感想が寄せられました。



東京駅での視察を終えて



協会ボランティア 通信 連載 第9回



寺西さんが直接事務所までデジタルカメラを届けてくれました

「わんりい」
寺西俊英さん

「25の小さな夢基金」の翻訳ボランティアとして昨年からお協力いただいている東京・町田の日中文化交流市民サークル「わんりい」のメンバー寺西俊英さんが、感想を寄せてくれました。

「25の小さな夢基金」に関する 翻訳のお手伝いで思うこと

もうかれこれ半年近く経つでしょうか。「25の小さな夢基金」で雲南省の山奥に住む少数民族女子高校生を支援している活動を知りました。

私が日本雲南聯誼協会を知ったのはそれより1~2年前ですが、初めてこの協会名を目にした時、「いったい何をしている協会だろう」と思いました。「聯誼」という字句が私を戸惑わせたのかもしれませんが、しかし少しずつ「わんりい」と協会との交流が深まり、初鹿野理事長の人となりに触れる機会が増えると、こ

の協会の立派な活動に驚くことになりました。どの活動も「素晴らしい」の一言ですが、この「25の小さな夢基金」は出色の内容のように思えます。そして翻訳というお手伝いがあることを「わんりい」の田井さんや有為楠さんから聞き、私のレベルの中国語でよければ協力しましょう、ということで始めました。しかし実際に女子高生の手紙を手にとると、簡単に引き受けたことを後悔しました。中国語の教科書の文章を訳すのとはわけが違うことが分かったからです。そこには生きている人間の息遣いがありました。直訳するときんとした日本語にならないのです。反面、意識しなくてもよくありません。サポーターの方々に對する彼女たちの心からの思いを、どのように表現するか悩むこともありました。その時は彼女たちが厳しい環境の中で心を込めて筆を走らせている姿を思い、彼女たちに寄り添って翻訳するよう努めました。訳文の様式や例文を見ながら何度か翻訳させていただきましたが、サポーターの皆さんに彼女たちの気持ちが正確に届いているのか自信はありません。しかし折角の機会を与えてくださった協会に貢献できるよう、今後とも経験を積み重ねながら頑張るつもりです。とりとめの文章となりましたが、日本雲南聯誼協会のますますのご発展と心の温かいサポーターに支えられ彼女たちの人生が実り豊かであることを祈っております。

(「わんりい」 寺西俊英)

出張報告

初鹿野恵蘭理事長 香港出張

初鹿野恵蘭理事長が3月25日から29日まで香港へ出張し、27日には香港を代表する文化誌『香港鏡報』主催の第4回社会貢献傑出企業賞(優秀CSR賞)授賞式にプレゼンターとして出席しました。

今年で4回目となる授賞式では、香港で社会貢献に寄与した34の個人・団体に賞が贈られ、香港特別行政区の梁振英行政長官、日本国総領事館の井川原首席領事をはじめ、政治経済、文化教育など各界で活躍する約300名が祝いに駆けつけました。



また、同日午後には総領事館を表敬訪問、井川原首席領事、西領事に協会の活動を説明しました。お二人は協会の活動に理解を示し、今後、協会の活動に協力していただくことになりました。



イベント情報

■アジア未来への人材育成プロジェクト
第3回 雲南大学生フォーラム(雲南)
日時: 6月5日(金)
場所: 雲南師範大学(中国雲南省昆明市)

■少数民族の女の子たちに夢を!
第6回「夢は叶う」講演会
日時: 6月6日(土)
場所: 昆明女子中学(中国雲南省昆明市)

■2015年度 定時総会
日時: 6月13日(土) 10:00~12:00
場所: 株式会社評論社5階 501会議室
(東京都新宿区市谷左内町21-13)

■「ふれあいの旅」
日時: 6月27日(土)~7月5日(日) 8泊9日
主な訪問地:
昆明市、老木壩村、麗江市、寧蒗県

■「25の小さな夢基金」
支援生徒・上海日本人学校交流会
日時: 7月14日(火)~16日(木)
場所: 上海市内各地、
上海日本人学校高等部

■2015年度 第2回役員・顧問会
日時: 8月5日(水) 16:00~
場所: 株式会社評論社内 会議室

■協会設立15周年記念式典
日時: 8月22日(土) 式典 13:00~
懇親会 15:30~
場所: 京王プラザホテル
(東京都新宿区西新宿2-2-1)

■第3回日本雲南大学生交流
スタディツアー
日時: 8月19日(水)~29日(土)
場所: 都内各地、長野県青木村

■第3回日本雲南大学生交流
スタディツアー 活動報告会・懇親会
日時: 9月5日(土) 報告会 13:00~
場所: 株式会社評論社5階 501会議室
※報告会終了後、懇親会

イベント報告

大宮支部春節パーティー 今年も100名以上が参加しました!



毎年恒例の大宮支部春節パーティーが2月7日、埼玉県上尾市の上尾文化センターで行われ、埼玉県在住の会員を中心に107名が参加しました。

当日、ボランティアの方々は朝9時に集まり、わいわい楽しみながら会場のセッティングと料理の準備をしました。鳳会の大島さんは芸術作品のような中国風饅頭を作ってくれました。

今年では会員の小川さんの提案で、みんなで初めて南京玉簪や皿回しにチャレンジ、大人から子どもまで大喜びでした。また「のど自慢大会」の提案も飛び出して、皆さん自慢の歌声を披露。会員の王珊の雲南民族楽器に合わせて全員で輪になって踊るなど会場がひとつになりました。

最後に協会の都筑顧問、滝澤顧問、そして上尾市国際交流協会の安田会長からご挨拶いただき、閉会となりました。参加者からは「おいしい料理をたくさん食べて、歌って、踊ってとても楽しかった。また来年も是非、参加したい」という声が聞かれました。

ボランティアの皆さん、朝早くから大変お疲れ様でした。

ボランティア協力(原不同、敬称略): 市川由美子 小俣小輝 大野純子 高橋金子 沙樹 百文 周盛露 李輝 大島優佳 吳成鳳 宮澤美咲 川口邦夫 大泉国雄 服部恵美子 丸田智代 小川輝夫 横山晋 久継智宏 佐藤正典 寺内憲一 寺内明子

2015年旅日華僑人新春招待会

初鹿野恵蘭理事長 出席

中国駐日本国大使館主催の恒例行事「2015年旅日華僑人新春招待会」が1月30日に開かれ約300人が参加、初鹿野恵蘭理事長も15年連続で出席しました。程永華駐日大使は新年の祝辞で「両国各界の共同努力により、中日関係は改善の方向へ重要な一歩を踏み出しました。両国関係を改善するカギになるのは、(中日共同声明など) 中日の四つの政治文書を遵守し、改めて政治・安全保障の相互信頼を築き、中日関係を正しく長期的なものにすることです」と述べました。



◎程永華駐日本国特命全權大使

大学生協力会の学生初来日
初鹿野恵蘭理事長と藤沢で再会

◎左から劉依萌・初鹿野恵蘭理事長 白斐環

初鹿野恵蘭理事長と会員の平田栄一さんが、雲南大学滇池学院日本語科の劉依萌さんと白斐環さんに会うため、2月13日、神奈川県藤沢市の湘南学園中学校・高等学校を訪れました。藤沢市は昆明市と姉妹都市で、二人は同校の国際交流事業で来日していました。二人は協会が現地で創立した「雲日国際大学生協力会」のメンバーでもあり、四人は今後の活動や「日本雲南大学生交流スタディツアー」について話し合いました。劉依萌さんは「車で2時間かけてわざわざ東京から来てくれてありがとうございます。大学生協力会の新年度の活動方針も決まったので、これからもっと活発に活動していきたいです」と話していました。



◎平田さん(写真右)に中国語の授業を手伝ってもらった様子

中国大使館主催
国際婦人デー記念パーティー出席

中国大使館主催の「国際婦人デーパーティー」が3月6日、大使館本館で開かれ、日本で活躍する日中の女性400名が参加しました。初鹿野恵蘭理事長は毎年招待を受け参加していますが、同日は「日本雲南大学生交流スタディツアー」引率のため残念ながら参加できず、代わりに事務局職員が出席しました。汪婉駐日本大使夫人は冒頭の挨拶で、女性には「平和を守る・発展へ貢献する・交流を促進する」という3つの役割があり、「婦女能頂半边天(女性は天下の半分を支えている)」と述べられました。長年にわたって協会の活動をご支援いただいている劉亜明総領事と王樹凡一等書記官にもお会いでき、謝意を伝えました。



世界につながる国際協力のお祭り

「ワン・ワールド・フェスティバル」参加

関西最大の国際支援のお祭り「ワン・ワールド・フェスティバル」が2月7日(土)、8日(日)に開催され、国際協力を中心としたNPO・NGO、国際機関173団体が参加し、協会も昨年に引き続き2回目の参加となりました。今年は関西テレビの賛同により、会場が関テレ扇町スクエア(大阪府大阪市)を中心に設けられ、会場は昨年よりより広くなり、2日間で26,000名が来場しました。中核をなす関西テレビ効果は絶大で、有名芸能人のトークイベントや各国舞踊を主としたお祭り演出が効いて、屋外飲食ブース、そして団体出展会場、どこをとっても大賑わい。毎年、ボランティアとして参加している会員の平松宏子さんを中心に準備を進め、子どもたちの日常生活を写した写真パネル、黒い族の赤い民族衣装、手作りのポーチ等を展示しました。初日の午前11時を迎える頃から会場は人がひしめき合い、2日間で60名が中国・雲南省少数民族の現状に興味を示し協会ブースで足を止めボランティアの説明に耳を傾け、特に大学生や高校生などの若い世代が目立ちました。



ボランティア協力(原不同、敬称略): 平松宏子、平松康弘、千々岩哲、上原正夫

お知らせ

- Facebook
「日本雲南聯誼協会」公式アカウント
<https://www.facebook.com/NPO.JYFA>
「日本雲南大学生交流スタディツアー(日本雲南聯誼協会)」公式アカウント
<https://www.facebook.com/YunnanStudyTour>
「雲南省少数民族の女子学生に夢を! 25の小さな夢基金」公式アカウント
<https://www.facebook.com/25foundation>
- ブログ「雲南の郵便屋さん」
<http://blog.canpan.info/yunnan/>
- 日本雲南聯誼協会ホームページ
<http://www.jyfa.org/>
- Wechat(微信) 協会公式アカウント ID: rbylnlyxh
※中国語が分かる方はぜひ登録してください

Facebook「日本雲南聯誼協会」



Wechat(微信)



編集後記

ネパールで大地震が発生し、各国の救援隊が駆けつけるとともに、世界中の人がネパールのために祈りをささげています。少し残念なのは、日本のマスコミは1週間もたたないうちに、遠くの出来事のようにしか被災地の状況を報じなくなったことです。4年前に東日本大震災を経験した日本人こそ、ネパールの人々が今感じている苦しみや悲しみを自分のこととして受け止めることができるはず。協会は雲南省麗江で起きた地震をきっかけに活動を始めました。国や言葉は違っても、相手を理解しようと努め、痛みをわかちあおうとする姿勢が支援活動には必要です。

(編集長・木本一彰)